

普及活動情勢報告（令和５年５月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

国営ほ場整備後の有望品目へ！ ～試験栽培の早生タマネギを収穫～	
	5月2日、生産者と南国市、県が連携し、ほ場整備後の有望品目として試験栽培している早生タマネギの収穫作業を行いました。 早生タマネギは、ほ場整備後の有望品目候補として昨年12月に定植したもので、農業改良普及課では、栽培技術の助言、指導を実施してきました。当日は、機械や人手による作業の流れを農家と確認し合い、作業をスタートしました。 農家からは「思ったよりも収量が多かった」「規模拡大するなら機械化が必要」との声が聞かれました。 今後は中生品種の収穫作業も予定されており、農業改良普及課は引き続き、関係機関と連携して取組を支援します。

肥大も良好！

産地内で活発な情報共有を！ ～南国市シシトウ４部会合同役員会～	
	5月1日、ＪＡ高知県南国営農経済センターで、ＪＡ主催の南国市シシトウ４部会合同役員会が開催され、生産者及び関係機関18名が参加しました。 農業改良普及課からは、高知県が育成した非辛みシシトウについて情報提供しました。また、会では、各部会のパック詰め作業員不足等について意見交換しました。 生産者からは、非辛みシシトウについて「樹勢が強いため、生りこんだり曇雨天時でも安定して着果する」「販売やＰＲについては慎重に進めて欲しい」などの声が聞かれました。 農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、南国市のシシトウ産地の維持拡大に向け取り組んでいきます。

合同役員会の様子

現地研修会を開催しました～温室みかん部会～	
	5月8、12、15、16日、ＪＡ高知県香美地区果樹部温室みかん部会は支部別に現地研修会を実施し、のべ20名が参加しました。 研修会では、参加者全員の園地を巡回しながら収穫に向けての栽培管理を研修しました。農業改良普及課は、着色不良対策や水戻し時の裂果対策などを指導しました。 参加者からは「摘果をもう少しした方が良いのではないか」「遮光ネットはどの種類が良いのか」など多くの意見が出され、先月に実施した佐賀県での視察研修で学んだことを実践している生産者もあり、活発な議論がありました。 農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して高品質安定生産を

園地巡回の様子

	支援していきます。
--	-----------

オオバ栽培でも挑戦！～オオバ部会天敵実証ほ～

	5月12日、J A高知県土長地区オオバ部会員ほ場で、天敵実証試験が始まりました。オオバ栽培では、アザミウマ類やコナジラミ類の被害が問題となっていますが、登録薬剤が少なく薬剤感受性の低下もみられることから、I P M技術の確立が求められています。 農業改良普及課は、J A・農薬メーカーとともに、害虫の事前調査の後、アザミウマ類・コナジラミ類に対する天敵「スワルスキーカブリダニ」を放飼し、その後の管理を指導しました。 生産者からは「使える農薬教えてほしい」「初めてで不安だが、結果が楽しみ」といった声が聞かれました。 農業改良普及課は、今後も関係機関と協力し、オオバ栽培におけるI P M技術の確立を支援します。
---	--

天敵を放飼する指導員

5年後の経営発展に向けた計画作成支援～認定農業者の面談を実施～

	5月10～12日の3日間、香南市役所において、再認定の意向がある認定農業者8名を対象に面談を行い、農業経営改善計画作成を支援しました。 香南市と農業改良普及課2名体制で、経営の現状と課題を聞き取り、今後の計画・目標について農業者と協議しました。農業改良普及課からは、課題に対する解決策などを助言しました。 面談した農家からは「所得を上げるために、規模拡大を図る必要がある」「省力機械を導入して、作業時間の短縮に取り組みたい」などの声が聞かれました。 農業改良普及課は、今後も施設・農業機械の導入や経営改善に必要な補助事業の情報提供など目標達成に向けて支援していきます。
---	--

今後の計画について話し合い

好天に恵まれ肅々と～新嘗祭献穀田お田植式～

	5月10日、香美市土佐山田町山田島の竹島章氏のほ場で、関係者約20名が出席し、地区住民が見守る中、宮中祭事である新嘗祭に献穀するための献穀田でお田植式が執り行われ、高知県の産地銘柄品種でもある「にこまる」を早乙女がお手植えしました。 献穀者の竹島氏からは「好天に恵まれありがたい、身の引き締まる思いです」と、地区住民からは「こんな行事に立ち会えるのは一生に一度でうれしい」との声が聞かれました。 農業改良普及課は、献穀候補者の選定から実行委員会の立ち上げ、品種選定への支援を行い、今後は9月の抜穂式に向けて、栽培管理を支援していきます。
---	---

豊作を祈りながら

